

# 哲 學 研 究

第 壹 卷 第 五 冊

第 五 號

大 正 五 年 八 月 一 日 發 行

メーヌ・ドック・ピランの出づる迄……文學士 錦田義富

集團心理現象の概念及び本質……米田庄太郎

經濟哲學の問題……法學博士 左右田喜一郎

感情に關する一新學說……文學士 千葉胤成

東方亞細亞の教育に關する一節……文學博士 小西重直

リッケルトの歴史學の觀念に就て……文學士 安部晴之助

新著紹介……

京 都 帝 國 大 學 文 科 大 學 內

京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	中川得立
文學士	植田壽藏
文學博士	松本文三郎
文學士	深田武
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴方治	

### 書記

人類の思想の中で最も意義あるものゝ一つには相違ない。然し乍らその意義は何處に在るかは大に考察を必要とする。今茲に輕佻なる生活を送つてゐたものが、常軌を逸した其の放縱、街誇若くは幻影より倏忽にして世人の指彈するところとなり峻烈なる社會的制裁の下に繋がれ遂に淪落の淵に沈んだとする。そして彼は絶望悲歎し、前非を悔いて懺悔恥産し、悔後の情轉た大切なるものあり、死なんとする鳥の悲調を傳へたとする。これを以つて其人の心情は、「人類の取るべき究極の方向」を適切に示したものと認むべきであらうか。言ひ換れば、個人が社會的制裁の下に只管戦慄畏縮せるを最も價値ある人類の狀態と見做すべきであらうか。

又法律の強制力を實證し國家の權力を顯揚しえたる點に於て、個人の懺悔悔後を嘉し、それよりして其個人を憐憫するのは、吾人の大なる喜びであるだらうか。ワイルドを此意味に於て評價すべきであらうか。否、否！僕はワイルドを誣ふるに之より甚しきものあるを知らない。此の常識的見解ほどワイルドを曲解し彼の價値と獄中生活を無意義にし、引いてデ・プロファンダスの思想を冒瀆するものはあるまい。

デ・プロファンダスの思想並にデ・プロファヂスそのものを、他の諸作を通じての思想並に他の總ての作物どの相對的見地より見るか、或は之を引離して若くは絕對的見地より測るかによつて大に其評價を異にすると思ふ。デ・プロファンダスはワイルドの一つの作なる以上、勿論その全體の上から取扱はるべきものであるが、ワイルドの如き特殊の個性、特異の生活者の場合であり、一見がらりと變つた様に見られるデ・プロファンダスの場合

であるから、特に此標準を立てることを肝要とする。結果は次の様に抽き出されるから。——前者の見地よりせば、デ・プロファンダスの思想は特異なものでもなければ、異つたワイルドを示すものでもなく、虚と實との變換ではない。然るに後者の見地よりせば、此思想こそ特異なものであり、一新せるワイルドの面目を現はすものであり、從來の虚が實となり、幻の消滅だとする。田部氏の見地は果して孰れにあるであらう。危い哉後者の見地は常識的見解と提携し易く、ともすればワイルドを誣ふることがあるを附記して置かなければならない。(園賴三)

## 寄贈書籍雜誌

科學の價値

文學士

ボカンカレ著  
田邊元譯

岩波書店

認識の對象

文學士

リツケルト著  
中川得立譯

同

國民道徳要領

文學士

吉田靜致著  
藤本慶祐共著

東京寶文館

哲學雜誌、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、東亞之光、第三帝國、六條學報、學校教育、内外教育詞論、普通教育、小學研究教育研究、教育學術界、教育界、新公論、兵庫教育、静岡縣教育時報、滋賀縣教育會雜誌、愛知教育雜誌、愛媛教育、都市教育、信濃教育、宮城縣教育會雜誌、藝備教育、少年俱樂部、

## 前 號 目 次

<p>支那上代の巫、巫感に就いて……………文學博士 狩野直喜</p> <p>ボルツァーノの哲學……………文學士 中川得立</p> <p>繪畫に於ける自然性の價值(完結)……………文學士 植田壽藏</p> <p>社會的教育の過去及將來(完結)……………文學博士 小西重直</p> <p>感情移入說非難概括……………文學博士 深田康算</p> <p>彙報</p> <p>新著紹介</p>	<p>……………文學博士 狩野直喜</p> <p>……………文學士 中川得立</p> <p>……………文學士 植田壽藏</p> <p>……………文學博士 小西重直</p> <p>……………文學博士 深田康算</p>
---	---

定規文註 廣告料 價定 告 會

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下  
 度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ  
 御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ  
 几テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
 文科大學內 京都哲學會  
 振替口座大阪參〇六六參番

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金	貳	拾	錢
六冊	冊	金	壹	圓	貳
十二冊	冊	金	貳	圓	四
		拾	錢	一	不
		中			受

●會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶  
 文館へ御申込下され度候  
 ●本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さる  
 べく候  
 ●振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候  
 ●前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに  
 付直に御拂込下され度候  
 ●見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候  
 ●特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下  
 され度候

大正五年七月二十八日印刷納本  
 大正五年八月一日發行  
 第五號 第五卷  
 第五册

不許複製  
 禁轉載

發行所 東京日本橋區本石町三丁目  
 (振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目  
 大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、  
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館  
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

編輯者 京都帝國大學文科大學內  
 京都哲學會  
 右代表者 寶嚴 方治  
 發行者 大葉久吉  
 印刷者 青柳十一郎  
 印刷所 秀英舎第一工場

神戸高等商業學校教授 中川 靜 著

再 版

# 信書精覽

布 裝 全 二 冊  
 定 價 各 壹 圓 八 拾 錢  
 送 料 各 金 拾 貳 錢  
 揃 金 貳 拾 錢

▲五千部り限特價冊二金貳圓九拾錢冊一各金壹圓四拾五錢

## 好評如湧

▲著者中川教授は信書文學に没頭せらるゝこと十有餘年、而して著者が多年の研究は此大冊二卷を完成す。其の上卷は各種信書に通用する信書の組織、並に各局部・新舊様式・語句用法・慣用語彙・立案手續・整理法・電報に關し、通論的に解説して餘蘊なく、下卷は季節・問候・通告・人事・金品・要請・會同の七門を經とし、親交・社交・商務・公務の四性を緯とし、更に之を三十九種に分ち種毎に作成要項・誌料・例文練習等の各項を設け、各論的解説井然たり。信書文の語句使用標準は、東西兩洋の研究者が、從來明瞭・簡單・正確の三點と爲すに一致せり。教授は更に完全の一を加へて四點とし、此標準下に剖判解析し、庖丁の牛を解くに似たり。

▲語句用法に就て、正字學・詞性學・文章學・修辭學等に涉りて深刻精緻の解説は、從來一通り信書文を認め得べしと過信せし人をして、忽に其缺陷を自覺せしめ、又容易に矯正の途を自得せしむ。

▲上卷作句例の外に、下卷の文例七百に上り、其の細別は三百に近く、尙外に參考古文例數十篇を掲げたり。有事の際題下に之を求めんには、殆んど其儘に實用し得るもの多からん。

▲既刊書翰文書中の王冠！

東京 寶文館 大阪

哲學研究 第五號 第五卷 大正五年 (每月一回) (大正五年四月六日) 定 價 貳 拾 錢